

札幌市博物館活動センター 情報誌 ミューズ・レター

Muse Letter

No.73
July 2020

エゾノサワアザミ

「美しい花にはトゲがある」という例えがありますが、実際に植物にはトゲをもつものがあります。キク科のアザミの仲間もその一つです。このエゾノサワアザミは川や沼の近くの草原や湿原でよく見られます。トゲはそれほど多くなく、触れてもケガをすることはありません。

「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse(ギリシャ語)と通信や手紙を意味するLetter(英語)からMuseLetterと名付けました。

発行 札幌市博物館活動センター

〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6 Tel: 011-374-5002 Fax: 011-374-5014
Email: museum@city.sapporo.jp ホームページ: <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

開館情報はホームページをご確認ください。



ホームページアクセス
二次元コード



さっぽろ市
02-D05-20-1102
R2-2-784

ホット
コラム

展示室につき 番外編

おうちミュージアムで つながろう!

○月×日 展示解説員 前田 亜沙美

私、解説員の前田は4月から札幌市博物館活動センターで再び働くこととなり、以前のように来館者の皆さんとお話できることを心待ちにしていました。しかし、新型コロナウイルスの影響もあり皆さんに会えないのはとても残念です。そんな中、力を入れているのが、「おうちミュージアム」です!!

これは、楽しく学べる情報をホームページ上で公開することで、家にいながら博物館を楽しめるようにしようという取り組みです。北海道博物館から始まり、今では全国の博物館が参加しています。

当センターでは、ぬりえや自然史クイズ、標本の作り方などを公開しています!

これからも工作を通じた学びや、家の周りで見つかる自然史の楽しさなどを紹介していきます。「おうちミュージアム」で私達博物館活動センターとつながってくださると嬉しいです!そしてセンタースタッフ一同、早く皆さんとさまざまなイベントでお会いできることを願っています。



おうちミュージアム
二次元コード

File No.9

こんな時だからこそ!
皆さんと力を合わせたい!

SMAC活動レポート

当センターで行われる、市民の自主的活動や、学校との連携など、さまざまな活動を紹介します。

新型コロナウイルス感染症の影響で、自宅で過ごす時間が多くなっていますね。「自宅で過ごす皆さんと、何か一緒にできることはないか。」当センターのスタッフは頭を悩ませていました。

そこで企画したのが「大きなアマビエ作り」です。

その姿を描いて人に見せると疫病(えきびょう)が治まるといわれている妖怪「アマビエ」は、人魚であったという説があります。また、札幌で化石が発見されたサップロカイギユウをはじめとしたカイギユウ類は人魚のモチーフとなったといわれており、アマビエとは「人魚」という点で“ご縁”がありました。

この縁を生かし、新型コロナウイルス感染症の一刻

も早い終息を願い、また、医療従事者をはじめ、私たちの暮らしを支えている方々への感謝とエールを込め、皆さんと一緒に「大きなアマビエ」を作り始めました。当センターで用意したアマビエ・サップロカイギユウぬりえや作品を募集し、大きなアマビエを完成させる企画です。

令和2年5月の開始当初から、たくさんの力強い、かわいい、個性が光る作品が寄せられ、「大きなアマビエ」が続々完成しています。

「大きなアマビエとサップロカイギユウに思いを込めて」



ホームページ、博物館活動センターで作品を公開中

初夏の 生き物たちのライブ

文／学芸員 山崎 真実

このミュージズレターの片隅に、毎回載っている植物の絵があります。それは小さなライラックのイラストで、札幌市が発行した広報印刷物には同じマークが入っています。なぜ、ライラックなのかというと、ライラックが札幌市の木に選ばれているからです。今ではマスコットキャラクター(ゆるキャラ)が看板代わりの地域も多いですが、日本全国の市町村や都道府県の多くではそれぞれに花、木、鳥が選ばれていて、札幌市では今から60年前(昭和35年(1960年))に市民投票で花はスズラン、木はライラック、鳥はカッコウに決まりました。

この3つの生物に共通するのが、5月～6月に咲いたり鳴いたりし始めることで、私たちに初夏を告げる生き物だということです。毎年めぐり来る季節であっても、こうした生き物たちの様子を生(ライブ)で見たり聞いたりすることで、新たな生命のはじまりを実感して気分も高まるのではないのでしょうか。

スズランの花言葉「再び幸せが訪れる」は北国の春の喜びを表すといわれたり、「カッコウが鳴いたらマメ(種)をまけ」という昔からの生活の知恵も伝えられたりしています。実際、カッコウが鳴き始める5月中旬ごろには気温が上がり始めて霜の心配もなく安心してタネまきができるので、昔から人間は自然をよく観察して情報を得てきたことがうかがえます。



カッコウ



スズラン



ライラック

しかし、現在の札幌市中心部ではカッコウの「カッコー、カッコー」と繰り返す鳴き声を生で聞くことはめったにありません。カッコウは初夏に日本に渡って来る夏鳥で、林と開けた場所(農地や草原など)の両方がそろっている場所に生息し、札幌市内では郊外で鳴き声を聞くことができます。

スズランはどうかというと、庭や公園で目にするものはヨーロッパ原産のドイツスズランで、野生のスズランの自生地は市内数カ所に減りました。スズランは花が咲くまで数年かかります。花が見られるのは群生地が守られている富丘西公園(手稲区)だけで、1つ1つは小さな花でも群生するとほんのりと香りがしました。

一方、ヨーロッパ原産のライラックの花の香りは市内いたるところで楽しめます。ライラックはモクセイ科の木で、日本に自生する植物で一番近い種のハシドイは、全国の低地の山林に生え、花の色は白一色です。ライラックの和名はムラサキハシドイといい、花の色は基本の紫系から白まであり、花の房も大きく、鑑賞向きで多くの品種があります。明治時代に初めて札幌に植えられてから100年以上がたった今、ライラックはすっかり札幌のシンボルとして定着し、「ライラックまつり」は多くの人でにぎわいます。

北海道の初夏～夏は本州と比べて長雨が少なく、さわやかに過ごせる季節です。私たちはこうした札幌の自然の魅力を、気付かずに見過ごしているのかもしれない。

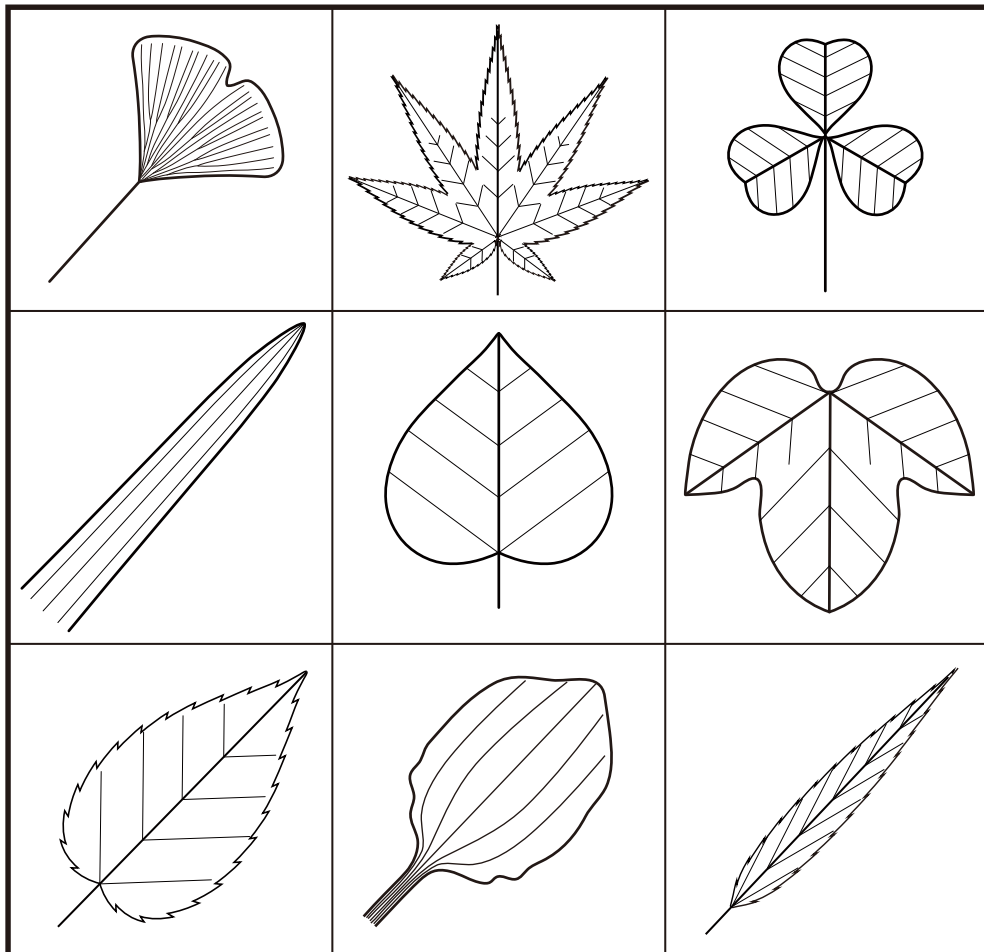
おさんぽ道でみつけよう♪ 葉っぱの形でビンゴゲーム

札幌の木「ライラック」の花びらは4枚ですが、ときどき5枚になっているものがあり、見つけると幸せになれる「ハッピーライラック」や「ラッキーライラック」と言われているそうです。しかも、ライラックの葉はハートの形！それだけでも何かいいことがありそう?!道端の植物にもハートの形をしたものがあるよ。他にも葉っぱのいろいろな形を観察しながら、ビンゴゲームをしてみよう!

遊び方

- ①絵と同じ形の葉っぱを探す。
葉っぱ全体の形やスジ、ギザギザにも注目してね。
- ②見つけた形を丸で囲む。
- ③たて・よこ・ななめのどこかで丸が3つ並んだらビンゴ!

全部の形を見つけられるかな?



植物例

- ムラサキハシドイ (ライラック)
- イチョウ
- シロツメクサ (クローバー)
- シダレヤナギ
- オオヤマザクラ (エゾヤマザクラ)
- エノコログサ (ねこじゃらし)
- オオバコ
- アサガオ
- オオモミジ